

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)

2013年度(2013年1月1日～12月31日)

活動報告

0. ケニア共和国の概況
 1. ケニア共和国での活動概要
ーキツイ地方*ミグワニ県、ムインギ東県／マチャコス地方マシंगा県／ナイロビ市ムクル・スラム群／
キツイ地方ムインギ中央県
 2. 学校：小学校と幼稚園の施設拡充ーミグワニ県
 3. 学校：小学校での環境活動ーミグワニ県
 4. 学校：小学校での保健研修(および関連した活動)・学習会ーミグワニ県、ムインギ東県
 5. 学校：幼稚園(小学校に併設)での保健活動ーミグワニ県、ムインギ東県
 6. 地域：保健研修と学習会ーミグワニ県、ムインギ東県
 7. 学校・地域：活動の準備ーマシंगा県
 8. 教育：高校生への補習授業ーナイロビ市ムクル・スラム群
 9. 新規事業地調査ームインギ中央県
 10. 他のアフリカの国での活動ータンザニア連合共和国
 11. 国内活動
 12. 組織運営
-

*行政区分は8州から47地方に変更。移行期にあった2012年度の活動報告書では、県名のみを記載。

0. ケニア共和国の概況

2013年のケニア共和国は、深刻な人的被害をもたらした2007年総選挙後暴力(PEV)の再発の不安が高まる中で、3月に総選挙が実施された。4日の投票から9日の結果発表まで、国中の日常生活が封印されたような緊張状態が続いたが、平和裏にウフル・ケニヤッタ氏を大統領、ウィリアム・ルト氏を副大統領とする政権が成立した。

2人は、PEVにおいてそれぞれ互いの民族への暴力を首謀・扇動した疑いにより、国際刑事裁判所での裁判の被告となっている。前回の総選挙では、相手の民族への反感・憎しみを増幅させるリーダーシップを発揮した。今回、少なくとも投票行動においては、相手の民族への協調を促進するリーダーシップを発揮した、と言えると思う。マスメディアにおいても、選挙前は裁判を逃れようとする利己的な連携、との批判を目にしたが、政権成立後は大統領の立場を尊重する論調に変わっているように思う。また、選挙前にあった、ケニヤッタ氏が大統領になれば、外交関係に深刻な影響を及ぼす、という欧米各国の警告的なメッセージも、うやむやになったような印象だ。

この選挙により、2010年に発布した新憲法が規定する行政・立法の体制も本格的に動き始めた。国会は一院制から二院制になって国会議員定数が大幅に増加し、47地方では新たに首長(County Governor)が選出され、地方議会議員も選出された。そして、地方分権の体制が整う中で、県の保健行政や教育の幼稚園部門が、地方政府に移管された。首長のリーダーシップによる、地域の行政サービスの改善・向上が期待される。ただ、首長や議員数、役職が顕著に増加したので、報酬の増額や高待遇を求める声も多くあがり、健全な財政を維持できるのか不安視する意見もある。

一方、2011年10月に始まったケニア軍のソマリア侵攻は続き、ケニア国内ではソマリア武装勢力による報復攻撃のリスクに恒常的にさらされている。67人以上の犠牲者をだした9月の高級ショッピングモール襲撃事件は、そのリス

クが大規模事件につながったものだ。今のところ、残念ながら、再発を予防し、リスクの解消につながるようなソマリア国内の平和の進展、武装勢力との対立の解消、治安対策の劇的な改善などは見られない。

ケニアの人々の日常生活は、不安定な社会状況の中、さまざまな先行きの不安とともにあるように思う。

1. ケニア共和国での活動概要

—キツイ地方ミグワニ県、ムインギ東県／マチャコス地方マシंगा県／ナイロビ市ムクル・スラム群／ キツイ地方ムインギ中央県

2013年度は、ケニア共和国キツイ地方ミグワニ県での総合的な社会開発*、特に住民参加による子どもの教育と健康の保障につながる協力を実施。平行して、ムインギ東県での退出移行期間の活動も行なった。また10月、マチャコス地方マシंगा県で総合的な社会開発の協力活動を開始できた。

ミグワニ県において、小学校の教室建設・補修では、2012年から実施している5校5教室の建設、4校12教室の補修、1校での基礎保全を3月までに完了。新たに3校3教室の建設、5校13教室の補修、5校での基礎保全を、学校運営能力向上の学習会から実施している。環境保全活動は、2012年からの2校に3校を追加。学校保健では、エイズ公開授業を30校、エイズ子ども発表会を1校で開催した。また、早期性交渉予防研修をミグワニ県の10校、ムインギ東県の4校で個別に実施。幼稚園では、2園でのトイレ建設が完了し、5園での保健活動の継続と4園での新たな保健活動の形成を行なった。

地域保健では、ミグワニ県で2012年から実施していた基礎保健研修を6準区で実施し、全36準区で完了。また、エイズ・リーダー研修をミグワニ県の30準区、ムインギ東県の3準区で実施し、研修修了者による地域エイズ学習会の開催に協力した。

マシंगा県では、行政と事業開始を合意し、本格化しつつある地方分権下での事業展開について話し合いを重ねた。また、ムインギ中央県(ムインギ県とミグワニ県の間)で、7月に新規事業のための調査を行なった。

ナイロビ市ムクル・スラム群において、高校生への補習授業への協力を継続した。

*1998年、当時の東部州ムインギ県(現、ムインギ東県)で教育協力を始め、その後、教育、保健、環境保全の総合的な社会開発活動を実施(2011年度から退出移行期間)。2011年3月にミグワニ県で同様な社会開発を開始。村落部における活動は、学校(小学校および併設幼稚園)と地域社会を対象に行なっている。

2. 学校：小学校と幼稚園の施設拡充—ミグワニ県

2-1. 運営能力向上と教室の建設・構造補修・基礎保全(ミグワニ県)

ミグワニ県は起伏があり、傾斜地に建てられていて土壌侵食が深刻な小学校が多く、崩壊の危険性が、教室数の不足とともに問題となっている。教室建設、教室の構造補修(鉄筋の柱とはりで補強)、基礎保全(教室の基礎の周りに土留め壁を造り、土を埋め戻す)活動を継続した。いずれの活動も、小学校保護者の学校運営能力も目的としていて、運営面と技術面の学習会を開催してから、保護者と協力して作業に進めている。

2012年度から継続している5校(カンベンベ、カトテニ、キュウシャニ、マズンジニ、ウイーニ小学校)で計(以下、同じ)5教室の建設、4校(クワキエル、キルング、キトゥンビ、シヨンゴニ小学校)12教室の構造補修、1校(ムズンズー小学校)での基礎保全を3月末までに完了。新たに、3校(カルー、キウモニ、ムリリニ*小学校)3教室の建設、構造補修を5校(ケア、クワキセンガ、ムズンズー、ムークニ、ゴニ**小学校)13教室、5校(ムリリニ*、ゴニ**、パウ、キトゥラニ、トゥミラ***小学校)での基礎保全を実施した(*は基礎保全を行なった上で教室建設に、**は基礎保全を行なった上で構造補修に移行。***は校庭の土壌保全も実施)。教室建設を予定していたうち1校においては、保護者間の対立状況があり、その改善および意識の変化が見られず、実施は不可能と判断した。

教室建設においては、2004年から1教室の隣に基礎と床部分までを CanDo が協力して造り、その上の部分からは保護者だけで完成させる、という「1教室+1基礎」を実施。多くの学校で2教室目が完成してきた。構造補修についても、CanDo との作業で能力と自信をつけたので、保護者だけで進めることができる、という声があがっている。

2-2. 小学校への水タンクの供与

教室建設に使用する水、また、生活水の確保が難しい小学校1校(キウモニ小学校)に水タンクを供与し、8校(キウモニ、ムルリニ、マサーニ、イゼンゼ、ウイーニ、ムズンズー、カンベンベ、ゴニ小学校)で台座の設置作業に協力。タンクの台座と屋根から雨水を導入する樋の設置に協力して、学校の保健活動・給食に活用できるようになった。

幼稚園での保健活動として、幼稚園で園児用のトイレの建設を行なった。

3. 学校：小学校での環境活動—ミグワニ県

3-1. 環境学習会と作業

ミグワニ県の小学校5校(トゥミラ、ムルリニ、カンベンベ、キトゥラニ、バウ小学校)で、学校の状況に合わせて、環境の学習会と作業を行なった。内容は、植樹、接ぎ木、菜園、乾燥野菜作り、収穫物を利用した給食作り、傾斜のある校庭において、等高線に沿って草を植える「草地化」など。

3-2. 土壌保全の活動

5校のうち、2校(トゥミラ、ムルリニ小学校)は、校庭の土壌侵食が特に深刻で、2012年度、地表水の排水について、公衆衛生官と調査を実施。

2013年度は、校庭で前項の草地化に加えて、「石堤」や「蛇かご(金網に石を入れる)」の設置、排水路作りなどの土壌保全の活動を行なった。

4. 学校：小学校での保健研修(および関連した活動)・学習会—ミグワニ県、ムインギ東県

4-1. エイズ関連の活動—公開授業と子ども発表会

2012年度に終了した教員対象エイズ教育研修のフォローアップとして、公開授業と子ども発表会の実施を促進した。

低学年からさまざまな教科で扱うエイズに関する教員の知識が不十分なことから行なっているエイズ教育研修を、ミグワニ県では2011年度から2012年度に全5教育区で実施。第1課程ではエイズに関する理科的知識、第2課程では低学年、第3課程では高学年に対する教授法を取り上げた。

研修を修了した小学校の教員が、他の教員たちとその知識を共有するための公開授業は、30校で行なわれた。子どもたちがエイズを劇、詩などで表現する子ども発表会は、1校(エンズバ小学校)で開催された。

4-2. 早期性交渉予防研修

小学校における早期性交渉による妊娠、そのための中退の問題に対して、子どもたちへの予防の教育を行なってほしい、とムインギ東県の教育局長が2010年、CanDoに要望。当初、対象は個別校だったが、その後、すべての小学校でという構想が提示された。

個別の小学校での早期性交渉予防研修を2013年度も継続し、ミグワニ県では10校、ムインギ東県では4校で実施した。内容は1日目に教員対象の研修、2日目は保護者向け研修と教員・保護者の話し合い、3日目は子どもへ保健トーク(年齢か学年でグループ分け)。ムインギ東県の2校での保健トークは、近くの高校と共催で行なわれた。

エイズ教育研修を修了した教員が、子ども、保護者、同僚教員に早期性交渉予防を教えるための、教員への集合研修を形成する準備を進めた。

4-3. 水に関する学習会

施設拡充で水タンクの供与、台座の設置作業への協力を行なった、ミグワニ県の小学校 4 校(ムルリニ、マサーニ、キウモニ、カンベンベ小学校)で、水タンクの使用と保健の学習会を開催した。

5. 学校： 幼稚園(小学校に併設)での保健活動—ミグワニ県、ムインギ東県

5-1. 保健学習会と作業

勉強面が期待され、健康への関心は向けられにくい幼稚園での保健活動として、ミグワニ県では、2012 年度から継続する幼稚園 5 園(マサーニ、ゴニ、カンゲゼニ、カトゥユ、ムークニ幼稚園)と新規の 4 園(イトウンビ、マブニ、ウイーニ、ムンガル幼稚園)で、保護者を対象に保健学習会を開催、関連した作業を行なった。内容は病気、栄養、害虫駆除などと野菜作り、収穫物と持ち寄った穀物と豆による給食作り。

幼稚園の教室に近い場所に、園児用のトイレを建設する作業が、2 園(ゴニ、カトゥユ幼稚園)で完了し、1 園(マブニ幼稚園)で進行している。

5-2. 成長の記録カードの配布

ムインギ東県の全 3 教育区で成長の記録カード(身体計測等を記載)を配布した。

6. 地域： 保健研修と学習会—ミグワニ県、ムインギ東県

6-1. 基礎保健研修

ミグワニ県では、2011 年度から 2012 年度に地域住民全体を対象に、エイズと母性保護の学習会を開催。その後、2012 年度には各村から選出された住民(男女一緒)を対象に、準区ごとに基礎保健研修を 30 準区で実施した。

2013 年度は、継続して 6 準区で行ない、全 36 準区で完了した。3 日間のコースで、母子保健と家族計画、栄養、水と衛生、一般的な病気、性感染症とエイズについて学ぶ。

6-2. エイズ・リーダー研修

ミグワニ県での基礎保健研修が全準区で完了後、修了者のうちエイズを教える意欲のある人を対象に、準区ごとに 3 日間のエイズ・リーダー研修を 30 準区で実施した。ムインギ東県においても、3 準区で行なった。この研修は、参加者が地域の住民に、エイズに関する情報を体系的に、コンドームの適切な使用方法を具体的に説明できるようになることを目指した。修了者は、自ら住民を集めて地域エイズ学習会を開催。当会専門家が参加し、助言した。

ムインギ県では、適切な説明ができた修了者の地域エイズ・リーダーとしての認定を実施。ミグワニ県では、エイズ・リーダー研修を 808 人が修了する規模となり、希望する学習会へ専門家を全て派遣できないので、リーダー認定は公平性を欠くと判断した。

学習会の水準は高く、エイズについて本当に教えたいという意欲を持ち、地域での人間関係がある修了者の説明は、専門家が伝えるよりもよい面があることも分かった。

子どもの性交渉・早期妊娠が地域の問題としてとらえられている、ミグワニ県の学校・地域社会において、早期性交渉予防研修を発展させる計画はとりやめた。

7. 学校・地域：活動開始の準備—マシंगा県

10月、マシंगा県(2郡で構成)マシंगा郡(6区)のマシंगा区、キバー区(教育区は同名、同一地域)において、ムインギ東県、ミグワニ県の経験を統合した総合的な社会開発事業を開始。行政官を訪問し、小学校での聞き取り調査を行なった。

過去には住民が土地を確保して、小学校の教室を自立的に建設していたが、ケニアで無償義務教育が始まった2003年くらいから、政府系資金や国際NGOの支援により、立派な教室が建てられるようになった。しかし、全ての教室が立派な教室にかわる前に、支援が終わってしまうと思われ、老朽化した教室が併存する状況にある。

給食は、2008年までは世界食糧計画(WFP)の支援で全ての小学校で提供されていたが、契約終了により、ケニア政府に引き継がれ、対象校が減らされている。同じ地域の小学校で、給食の有無があり、ない学校において、家庭から弁当を持ってくることができないこどもは昼食を食べられなくなっている。

8. 教育：スラム補習授業—ナイロビ市ムクル・スラム群

学校の休暇期間中、スラムの住居では勉強の場がないことから、1999年、4月、8月、12月の年3回の補習授業を開始。2006年、講師のほとんどが以前、補習を受けたことがある地域の大学生となり、2010年からはCanDoの日本人スタッフは入らない形で実施されている。2012年度は、8月に全国一斉に補習授業は禁止の通達があったため取りやめ、12月も見合わせた。「有料の補習授業を休暇期間中に実施するのはよくない」という従来からの考えを教育省が徹底。それ以前は「(諸条件で)遅れている子どもたちに対しては、実施しても問題ない」ということだった。

2013年4月、スラム在住の講師が、教育事務所からの許可を得て実施。ただし、小学校は使用できなくなったため、地域の施設を借りて行った。8月、12月も実施した。期間は10日間。

9. 新規事業地調査—ムインギ中央県

7月から辺縁のワイタ郡で調査。小学校の教室建設・補修、診療所の建設など、基盤整備への政府支援が、他の郡に比べ遅れが見られる。同郡の刑務所に勤務する刑務官、職員の多数が単身赴任で、子どもとの性交渉やエイズの問題が危惧されている。

10. 他のアフリカの国での活動

1月、タンザニア連合共和国において、外務省の依頼による、草の根・人間の安全保障無償資金協力「本邦NGOによるフォローアップ事業調査。

他のアフリカの国において、活動の形成調査は実施しなかった。

11. 国内活動

11-1. 広報

11-1-1. 会報『CanDo アフリカ』発行：A5判8または12ページ。年4回、第62～65号(3・6・9・12月)。63号「環境活動」、64号「教室の構造補修と基礎保全」などを掲載

11-1-2. 小冊子発行：『CanDoの15年の歩み』(A5判24ページ。9月)

11-1-3. ウェブサイト：これまでの主な活動のページを追加

11-1-4. 勉強会開催：講師は永岡宏昌(全6回。5～7月、金曜夜。文京区民センター)

11-1-5. 15周年記念イベント開催：活動報告とトーク(設立準備からかわる元スタッフ3人と永岡)、感謝の集い(7月20日、文京区民センター)

11-1-6. facebook ページを継続: 2013 年 5 月に開設。「いいね！」は 2014 年 3 月 18 日 14 時で 200 人(2013 年 3 月 17 日から 75 人増)。

11-1-7. イベントに出展: アフリカンフェスタ 2013(5 月 11-12 日、横浜・赤レンガ倉庫)、グローバルフェスタ JAPAN 2013 (10 月 5-6 日、東京・日比谷公園)でパネル展示と物品販売、アフリカ〜手をつないで前へ〜(7 月 6 日-9 月 1 日、JICA 横浜)でパネル展示

11-1-8. 他の媒体での広報: 「なんとかしなきゃ!プロジェクト」facebook で勉強会 他

11-2. 他団体・機関との連携・協力

・教育協力 NGO ネットワーク(JNNE)運営委員(永岡): 教育協力に関わる NGO を中心としたネットワーク(23 団体)。能力強化のためのセミナー、外務省、文部科学省への政策提言などに協力。

・(特活)国際協力 NGO センター(JANIC)正会員: 国際協力 NGO を正会員とするネットワーク型国際協力 NGO (93 団体)。政策提言、関係機関との交流・協力などの活動に参加。

・「動く→動かす」正会員: 貧困問題を解決するために設立された市民社会ネットワーク GCAP(Global Call to Action Against Poverty)の日本版(74 団体)。キャンペーン「STAND UP TAKE ACTION」の広報に協力。

・TICADV NGO コンタクト・グループ・メンバー(永岡): 6 月の第 5 回アフリカ開発会議のために結成された NGO のグループ。ミーティングに出席、本会議はモニター・ルームで傍聴。

・「世界一大きな授業」キャンペーン賛同団体: 教育について考える世界規模のイベント(4~5 月)の広報に協力。

・「なんとかしなきゃ!プロジェクト」メンバー: 国際協力にかかわる団体・機関、関心の高い個人がウェブサイト、facebook で情報発信。戦略会議に出席。

・NGO・JICA 協議会「草の根技術協力事業 10 年の振り返りのための分科会」委員(永岡): 関係部門、NGO へのアンケートの作成、シンポジウム(2014 年 1 月)の相談。

・NGO・外務省定期協議会: タンザニアにおける調査について報告(6 月、7 月。永岡)

11-3. 活動経験の提供・講師派遣

・JNNE「国際協力セミナー」、JC「国際協力フォーラム」、「なん!プロ」プレス勉強会、ゆうちょボランティア貯金報告会、法政大学法学部、国際開発学会パネル・ディスカッションで講演・講義・報告(永岡)

・JICA 駒ヶ根「信州グローバルセミナー」、青山学院短期大学こども学科で講演・講義(佐久間)

・『国際開発と協働』(明石書店、2 月)で分担執筆、「The Japan Times」(6 月 1 日掲載)取材(永岡)

12. 組織運営

12-1. 年次総会・会員数

12-1-1. 年次総会: 3 月 30 日に開催。2012 年度活動報告・会計報告が承認され、2013 年度活動計画・予算を決定。準理事として、伊東彩(調整員)、久保内祥郎(事務局長)2 名の追加を決定。

12-1-2. 会員数: 一般会員は 9 名入会、7 名退会で 63 名、賛助会員は入会 6 名、退会 10 名で 55 名・団体、計 118 名・団体(2 名減)。

12-2. 理事会

・第 1 回(3 月 30 日): 総会の 5 議案を承認

・第 2 回(7 月 20 日): 2013 年度の活動の中間報告と後半の活動計画、1~6 月の会計の試算表を確認。CanDo 預託金の第 2 回募集を決定。

12-3. 監査

12-3-1. ナイロビ事務所：3月、監査法人 Easterbrook&Co.による外部監査を実施。

12-3-2. 東京事務所：3月、監事による内部監査を実施。

12-4. スタッフ

12-4-1. ケニア

・調整員：石田純哉(～5月)、伊東彩、鬼頭景子(1～10月)、橋場美奈(12月～)、カンダリ・ムロンジア、レンソン・ムタンギヤ(4月～)

・調整員助手：レンソン・ムタンギヤ(～3月)、エスタ・ンドゥ、グレース・ティタス、パトリック・マサイ、ピーター・カランバ、ジャネット・マカウ、ジョサイア・キトンガ、フレドリック・ザンギ、レベッカ・ムワンガンギ

通訳：エドナー・ムウイカリ(9月～)

・インターン：合田暁良(～1月)、福田幸、才田恵里奈(以上、～2月)、岩本穂菜美、安井達哉、藤原照恭(以上、4～10月)、吉岡航希(6～12月)、西岡宏之(8月～)、三國志保(9月～)、泉田恵子、井町友香(以上、10月～)／岩崎敏実(12月～)

・専門家：幼児育成—吉田真季子(～2月)／建設—フランシス・ムエンドワ、キエマ・ムワンガンギ／教育—マーガレット・ムトゥンガ、クリスティン・ダイナ／保健—エリザベス・グリ、ジェイムス・キズク、ベンジャミン・カムティ、ミルカ・カワシア・ゾビ、ジョセフ・マルキ／環境—トーマス・ムシラ

・日本からの出張：事業責任者(兼代表理事)永岡(1～3月、6月、7～11月、12月)

12-4-2. 日本

・代表理事：永岡宏昌

・事務局長：久保内祥郎

・事務局員：佐久間典子

・インターン：樋惇紀(～3月)

12-5. 事務所

・9月、ムインギ東県のゲニ連絡事務所を閉鎖。

・9月、マシंगा県にマトゥー連絡事務所を開設。

12-6. 財政

12-6-1. 支援および事業委託元機関・団体

・外務省日本 NGO 連携無償資金協力…「ミグワニ県での住民参加による教育の質的向上を通じた初等教育普及事業 第2フェーズ(～2月)・第3フェーズ(3月～)

・(独行)国際協力機構草の根技術協力事業(パートナー型)…「マシंगा県マシंगा郡キバー区・マシंगा区での住民への基礎教育を通じた参加型子どもの健康・教育保障事業」(10月～)

・世界の人のびとのための JICA 基金…ムインギ東県での地域エイズ・リーダー養成(～7月)

・庭野平和財団…ムインギ東県での早期性交渉・妊娠予防研修—個別校対象(～7月)

・三井住友銀行ボランティア基金…ムインギ東県での早期性交渉・予防研修—集合型(2014年1月～)

・(特活)国際協力 NGO センター(JANIC)…NGO サポート募金

・ヤフー(株)…壁紙募金(2013年度で終了)、ポイント募金、クレジット決済募金(2013年度～)

・ユナイテッドピープル(株)…募金サイト「イーココロ」

- ・(株)ネットフォレスト…インターネット接続サービス

12-6-2. 預託金

2010年10月(～2011年2月)に受けたCanDo預託金の3年間の預託期間が終了となるが、目的としていた自己資金の確保はできていない状況のため、第2回預託金の募集を開始した。

以上